

後輩たちへのエール！ その53

2022年3月14日

勉強ができない関高生だった私が伝えたい事

◇今回は、市村野々子さん（岐阜医療科学大学看護学部）からのメッセージです！

1 はじめに

関高校の皆さん、はじめまして。2020年度卒業生の市村野乃子です。現在岐阜医療科学大学看護学部看護学科2年生で、医療と看護に関わる勉強をしています。今回、「関高校の皆さんにむけてメッセージをお願いします」との連絡を頂いたので、自身の高校時代を振り返りつつ、大学に入ってからのことや、大学生になって気づいたことなどもお話ししようかなと思います。

2 英語が好きな私が看護の道を選んだきっかけ

私自身、高校時代、勉強が本当にできませんでした。バリバリ勉強ができる関高生とは程遠い存在で、勉強に関していえば、強みはほとんどありませんでした。しかし、そんな私にも、唯一夢中になれるものがありました。それは、英語を話すことと海外の文化に触れることです。英語と看護、一見関係ない分野同士に思えますが、そんな英語好きの私が看護を目指したきっかけは、関高のSGHの活動にあります。

とにかく勉強ができなかった私は、高校の英語の授業もついていけませんでしたが、海外ドラマの主人公の真似をすることが大好きで、聞いて話すことで英語を身につけていた自分は、文法書を覚え、文の構造から勉強するなど、「英語＝勉強」と捉えることが苦痛で、「好きなことが苦手になっていく」そんな挫折を味わっていました。

しかし、何とか自分の強みを活かせる場所はないかと思い、高校1年生の時、初めてSGHの活動に参加しました。きっかけは、授業中に先生がSGHの活動の紹介をしていて、単純にグローバルという言葉に惹かれ、アフリカの難民の方の話に聞いたことです。今まで、英語で社会問題について学ぶことをしてこなかった私にとって、この難民の方の話は、ものすごく衝撃的だったのを今でも覚えています。そこで、もっと国際情勢について学びたいと思った私は、高校1年生の冬と高校2年生の夏に模擬国連に参加しました。模擬国連って何？と思う方もいると思いますが、簡単にいうと、学生主体の国連会議のようなものです。ペアを組み、そのペアごとに国が割り振られるのですが、議題に沿って自国のことを事前に調べる作業が必要でした。そこでも国際関係や、国際情勢について学ぶ機会がたくさんあり、自分の知らない事実が明らかになることにワクワクしました。模擬国連当日は、他校の生徒のレベルに圧倒されていましたが、自分にとってとても良い刺激になったと思います。

その後も、SGHでイギリス研修に参加したり、スピーチコンテストに参加したりなど、興味のある分野を広げる活動ができ、貴重な経験を積むことができました。

そして、学校行事もひと段落つき、そろそろ自分の進路について本格的に考えなくてはならない時期に差し掛かってきました。はじめは、今までの経験を活かし、国際関係について学びたいと思っていましたし、それに関連する学部に進みたいと考えていました。しかし、SGHの活動をする中で1つ疑問に思ったことがありました。それは、「単に英語が話せる、国際情勢に興味があるだけでは、自分たちは無力なのかもしれない」ということです。初めてアフリカの難民の方の話を聞いた時、初めて模擬国連に参加した時、議題となる国際問題の裏側には、いつも必ず助けを必要とする人たちがいることを思い知らされました。中には、身体的、精神的に助けが必要な人もいることを知り、単にその人たちを助けたいという思いだけでは救うことができないことに気が付きました。その人たちと直接関わり、実際に命を救うことや、その人たちに寄り添うためには、国際性はもちろん、医療分野での専門的知識も求められてくることを知り、徐々に国際看護の分野で活躍したいと考えるようになりました。

そして、進路を看護学部絞り、受験期間を経て現在の大学の看護学部に進み、大学生活を送っています。大学では医療の専門分野での勉強に加え、医療英語や臨床で使われる英会話を学んだり、毎週英語でのプレゼンテーションの課題が出たりなど、看護の領域でも国際性を重視した授業を受けることができるので、より知識を深めることができました。

高校時代、机に向かった勉強よりも、SGHでの活動の方が学んだことが多い気がしますし、大学に入ってからその経験が大いに活かされていることを実感します。勉強が苦手と思っている人ほど一度自分の知らない世界に目を向けてみてください。そして今世界では何が起きているかを学んでみましょう。きっと何か発見があるはずです。また、自分の知らない自身の新たな一面に気づくことで、新たな興味の幅が広がり、学びを深めること、目的を持って勉強することの楽しさを知るきっかけになるのではないのでしょうか。



イギリス研修での様子



模擬国連での様子

3 看護学生になってよかったこと・今後の目標について

私が大学生になった年、2020年は新型コロナウイルスが日本で猛威を奮い始めてい

ました。入学式はなくなり、初回の授業はオンラインになり、友達も作れませんでした。また、連日のニュースで取り沙汰されていた、医療現場の逼迫に関連するニュースなど、これから医療の道を志す学生としては、正直、将来については現在も不安でいっぱいです。特に実習に関しては、学生の受け入れが困難な病院も出てきて、自分たちが実習に行けるのか心配していました。

しかし、そんな中でも学生を受け入れてくださる病院もあり、実習を何とか行うことができました。実習と聞くと、大変なイメージがあると思いますが、実際本当に大変だし、病棟に行く時はいつも緊張してしまうのですが、患者さんとの出会いは、自分にとって大切なのだと実感しています。患者さんとコミュニケーションをとらせていただく中で、このコロナ禍でも温かく迎えてくださり、中にはお礼の言葉を投げかけてくださる方もいて、貴重な実習期間であるからこそ、心があたたかくなるし、そのような人の温かさに触れることができるのは、看護学生の1つの醍醐味かと思います。また、実習以外にも、看護科ではたくさんのことを勉強します。人間の身体のことはもちろん、心のことについても勉強しますし、コミュニケーション方法などの勉強もします。これらは全て、人と関わる上で大事になってくることなのはもちろんですが、本当に知っていて損はないです。いろんな分野につなげ、活かすことのできる勉強ができるのも、看護科の魅力だと思います。

今の自分の目標は、国際的に活躍できる看護師になって、国や人種関係なく人と接することができる人間になることです。他学部に比べると、看護科は大変ですが、そんな中でも、自分の学びたい学問を学べる環境があるので自分の目標を達成するべく、大学生活の1日1日を大事にしていきたいです。

4 高校生の皆さんに伝えたいこと

高校生になると、勉強のこと、進路のことについて考えることが多くなってきて、偏差値や学歴が重視される場面にも出会うが増えてくると思います。もちろんこれらは大事な指標になってくるのかもしれませんが、しかし、大学に入って私が気づいたことは、何を勉強したいのかを明確にすることが大切だということです。大学に入って勉強することが将来どんな場面で役立つのかわからなくて不安になることもあると思います。まずは、漠然とした考えでもいいので、大学で勉強することの意味をこの高校生の時期に考えてみてください。そうすることで、普段の勉強に対するモチベーションも上がると思いますし、大学に入ってからそのモチベーションを維持するためにはどうしたら良いか自分で考えられるようになるかもしれません。

最後になりますが、このコロナ禍や社会情勢が大きく変化する中、頑張っている皆さんは素晴らしいと思います。どうか自分の心と身体を大事にして過ごしてください。

最後まで読んでいただきありがとうございました。